

3-7		主題	「個別ケア」充実への第一歩	
個別ケア充実		副題	一人ひとりに合わせたケアを職員みんなで実践する為には	
情報共有				
研究期間	12ヶ月	事業所	社会福祉法人 泉陽会 第二光陽苑	
発表者：佐野 明日香			アドバイザー：	
共同研究者：2階北職員一同				
電話	03-5991-9917	メール	dai2kouyouen@mx5.ttcn.ne.jp	
FAX	03-5991-9918	URL	http://www.timelyhit.ne.jp/senyoukai/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人泉陽会を母体とする、特別養護老人ホーム第二光陽苑は平成11年4月に特養80床・ショートスティ30床の従来型特養です。平成16年度からフロアを区切り、ユニットケアを実施してきました。導入当初は、6つあったユニットも人員配置上、平成22年度から4ユニットに統合して現在のケアに至っています。
------------------	---

《研究前の状況と課題》 ・22年度の目標として「個別ケアの充実」を掲げている。 ・ユニット統合により、職員一人あたりの見る範囲が増えたため、サービスの低下が起きた。 ・職員の異動もあり、連絡体制の不備がフローア業務や利用者への対応に混乱を生じさせた。 ・申し送り漏れや、利用者情報の共有不足等が見られ、<u>今まで行えていたことが行えなくなってきた。(ケアのばらつきの増大)</u> ・今まで、ADL表があったが、情報が古くうまく活用できていなかった。 ● <u>検討の結果、新たに、利用者に対する具体的なケアを記した、対応詳細表を作成し、この情報を基に日頃のケアを行っていくこととした。それには最新の情報が必須なため、定期的に情報更新を行い、情報が常に最新に保たれるようにしていく。</u>	《研究の目標と期待する成果》 ・より正確な情報が共有できることにより、利用者に対する、安全且つ自立を促すケアが行えるようになる。 ・職員毎によるケアのばらつきが小さくでき、<u>利用者に対する統一されたケアが行えるようになる。</u> ・ケアを行うにあたり、<u>より多くの情報を把握できるようになる。</u>これにより職員間での情報共有が図れるようになり、ケアを含めた利用者に対する職員の意識が高まり、介護士としてのレベルの向上に繋がる。 ・介護士としてチーム体制で専門性を持ったケアを行えるようになる。 ● <u>これらが上手く機能することで、「個別ケア充実」への第一歩を図ることが可能となる。</u>
--	--

《具体的な取り組みの内容》

4月、検討開始。

現ユニットの状況と課題を抽出し、対策を検討する。情報共有を確実に行う為に ADL 表 を作成することとした。

5月、表を作成する事が決定。書式検討。

「見やすい」「わかり易い」「使いやすい」を意識した書式内容を何パターンか案を出し検討した。

6月～8月、書式決定。対応方法記入。

- ① ケアプランに沿って、また現状行っているケアの具体的な内容を対応詳細表に担当者が記入した。
- ② 上記の内容について表に各職員が追記した。
- ③ 記入内容（つまり対応方法）について一件ずつ検討を行いケアの標準化を図った。

9月、表完成。運用開始。

利用者の状態変化の際には、対応方法をミーティングで検討し、合意・周知を行った上で、追記・訂正を行い日頃のケアに反映させた。

10月、1月、中間評価のアンケートを実施。

これまで使用した上での意見や課題点を抽出。

3月、上記評価結果をもとに・・・

更新体制をマニュアル化し整備を行った。
現在、対応詳細表がどのように活用されているのか、どのように機能しているのか、改めて分析を行った。

＊個人情報の漏洩・プライバシー侵害無いよう細心の注意を払っております。

《取り組みの結果と評価》

- ① ケアの再確認をすることで、ケアの統一化に繋がり、個別ケアのばらつきが小さくなった。また、追記事項も記入が増え、より細かな情報を知り、共有することが出来た。
- ② 検討をする際の基盤となるものになった。常に新たな情報を対応詳細表で得られるようになり、アセスメントシートとしての側面が出てきた。
- ③ 活用方法や有効な手段などをユニット職員同士で共有することが出来た。また、ケアプランとの連動を図ることにより、その重要性を再確認することができた。
- ④ 定期的に評価、分析を行ったことで、新たな発見や、活用へと繋がり、職員へのケアに対する意識の向上に結びついた。

《問題点と課題》

対応詳細表はケアプラン実行の補助としても使用していけるものと分かったが、ケアプランへの理解はまだまだ不十分である。今後は勉強会開催等で理解を深めることが緊急の課題である。

《まとめ》

統一したケアを行うために作成した ADL・対応詳細表を使用してみると、職員個々の意識の強まりや、ケアプランとの連動にも結びついていった。今後もこの表を活用し、入苑者のより良い生活に繋げていきたい。

《提案と発信》

プロの介護士として私たちはその場の思いつきや職員個々の主観でばらばらな行動をしてはいけないと思います。「ケアプランに沿った根拠あるケアを、ご利用者一人ひとりに合わせたケアを、その方にとって必要なケアを、全職員が一丸となって実践できる。」という事が、介護士としての専門性を求められる今、より重要となってくるのではないのでしょうか。

【メモ欄】 追加資料 ㊦